

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	介護者等リフレッシュ入浴事業	会計	一般会計	事業No.	99	施策順No.	34-003
		事業種別	政策・その他	予算科目	3-1-3-14-1		
政策	3 健やかに安心して暮らせるまちづくり			課等名	福祉課		
施策	34 障害者福祉の推進			事業期間	開始	18	終了

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	車いす利用者とその介護者等						A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない
	誰、何に	具体的な数値で表すと(対象指標)	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	
		入浴事業該当者(人)		1552	1570	-	-	
		車いす入浴使用者(人)		100	100	100	100	
	意図	1 日ごとの介護の疲れを癒し、リフレッシュしてもらう 2 介護者の体力的負担を軽減して、快適な日常生活を過ごしてもらう						
対象をどう変えるか	事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績	23年度目標	目標達成度
	温泉施設等を利用した介護者数/入浴事業該当者 (%)	10.5	15.3	14.5	-	-		A
	浴室を利用した車いす利用者人数/補助対象人数 (%)	100	100	100	100	100	100	
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】	引き続き、介護者にとっての重労働に対する介護負担の軽減を図ることができた。							

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	1 車いす使用者の入浴事業(ほっ湯アップルのリフト付き浴室の利用料を補助し、在宅では重労働となる入浴の介護の身体的負担を軽減するとともに障害者にとっても想いの場を提供する事業) 介護者を含めた、ほっ湯アップル入浴料を補助する		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	車いす使用者及びその介護者への入浴事業	入浴延べ人数	115人
23年度実施計画	車いす使用者及びその介護者への入浴事業	入浴延べ人数	100人

3 事業コスト

事業費	特定財源	(千円)	22年度予算額	22年度決算額	23年度予算額	特定財源内訳、補足事項
	国庫支出金					
	県支出金					
	起債					
	その他					
	一般財源		480	480	480	
	計 (A)		480	480	480	
	正規職員所要時間			80		
	臨時職員等所要時間			5		
	人件費計 (B)			291		
	トータルコスト A+B			771		

4 事業に対する市民や議会の意見

--

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	支援を必要とする障害者(高齢者)及びその世帯が安心して地域で日常生活が送られる。	施策の成果指標又はムトス指標	安心して地域で日常生活が送れる割合(%)
この事務事業は施策の目的達成にどのように貢献しましたか	4年間の振り返り	在宅での入浴支援という、介護者にとっての重労働に対して介護負担の軽減が図れた。		
	後期に向けた課題	さらなる介護負担の軽減のため、回数等の検討が必要。		
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	対象者全員に対して個別に申請書を事前送付するなど、制度利用の促進を図った。		
	後期に向けた課題	さらなる介護負担の軽減のため、回数等の検討が必要。		
コストを削減するためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	利用回数の枠を設け実施した。		
	後期に向けた課題	さらなる介護負担の軽減のため、回数等の検討が必要。		
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り	介護負担の軽減という見地から、市の制度として個人負担なしで実施してきている。		
	後期に向けた課題	さらなる介護負担の軽減のため、回数等の検討が必要。		
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を発揮するために、行政はどのような働きかけをしてみましたか、又は、配慮してきましたか	4年間の振り返り	①②市の単独事業として、介護負担の軽減という目的のために実施してきた。		
	後期に向けた課題	①②さらなる介護負担の軽減のため、回数等の検討が必要。		
全体を通じて	4年間の振り返り	在宅での入浴支援という、介護者にとっての重労働に対して介護負担の軽減を図るために実施してきた。申請書の事前配布等、利用しやすい状況を作り出すことで、予定人員の利用があった。		
	後期に向けた課題	さらなる介護負担の軽減のため、回数等の検討が必要。		

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ない	対象や意図を修正する必要はありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要はありますか	ない
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	--	--------------------------------	-----------------------------------